
For I Love My Lover

善輝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

F o r I L o v e M y L o v e r

【Nコード】

N 5 0 1 3 B A

【作者名】

善輝

【あらすじ】

少年には夢があった。

それに邁進する事を決めていた。

少女は自分が嫌いだった。

何も出来ない、そんな自分が嫌いだった。

季節は冬。変わりばえのしない毎日が、少しずつ色を変えて行く。

愛する人を愛する為に、自分に何が出来るのだろう。

少年と少女は、その答えを探し始める。

日課怠る事なかれ（前書き）

はじめまして、義輝と申します。

まだまだ至らぬ若輩者ですが、楽しんで読んでいただけたらと思います。

誤字・脱字等ありましたら遠慮なく指摘していただけるとありがたいです。

それでは、この作品が貴方の心に少しばかりでも残らんことを願っています。

日課怠る事なかれ

——十二月、二十四日。

「あ、ほらほら、雪。ホワイトクリスマスだね」

粉雪の降る、美しい季節、その一日。

「綺麗だねえ」

誰もが浮かれ、家族と、友と、恋人と過ごす聖なる夜。

「お前の方が綺麗だ」

冷たい夜風もまた、人の温もりをより一層愛おしく思わせる、そんな時。

「やん、もう。臭い台詞ね」

俺、久坂駿騎は、

「でも嘘じゃな——おわっ、なんだ!？」

夜の街を、走っていた。

「おい兄ちゃん! 危ないだろ!」

「すまん」

「え、何あの人……？」

「さあね。彼女のどこにでも走ってんじゃないのか？」

悪いが、それは見当違いだ。

この走りの向こうに辿り着くべき人などいない。辿り着く場所すらない。

あるのは高み。俺が目指す、頂という、それだけの“モノ”の為だけに俺は走っている。

それは人でなく、場所でなく、言うなれば栄光、名誉。誇り。

夜の街はいい。涼しげな風は汗をさらい、体は熱さを求めさらに動く。彩る街灯やイルミネーション、雑踏は集中力を研ぎ澄ませる為のトレーニングになる。プロのスポーツ選手は、己によりよい鍛錬の環境を使い自分を高めるが俺は違う。第一にまだプロと呼べる領域に至っていない。尚且つ、教えにも齟齬がある。

『ベストな環境でしか出せない結果は実力ではない』

我が敬愛する師匠の教えだ。

最悪な環境でも、己の100パーセントを発揮できてこそ至高。あの方は常々そう仰っている。

状況を己に合わせるのはその時。今は己を状況に合わせてられるようにすべきだ。

全てを包括して、俺はトップアスリートの、さらに頂に立つ。それが、全てだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5013ba/>

For I Love My Lover

2012年1月13日22時54分発行